

## 【第4号議案】事業計画の件

### 2020年度事業計画

#### ・国際会議開催事業

中長期的に、IDWは、現状の分野を維持するとともに、新たな分野を取り込みながら、規模を維持する、または、拡大していく方針である。近年の新たな試みとしてScope制が導入されるなどIDWの仕組みが変化しつつあるが、仕組みの変化は中長期的な課題であると考え、当法人を中心にワークショップ（WS）等の意見を参考にして議論を進める。

2020年は、12月9日から11日の3日間、これまでと同様に一般社団法人映像情報メディア学会（ITE）とThe Society for Information Display（SID）の主催で、福岡国際会議場にて第27回ディスプレイ国際ワークショップを開催する。組織委員長は服部励治（九州大学）、実行委員長は上原伸一（AGC）、プログラム委員長は原和彦（静岡大学）である。国際会議の目的・趣旨・開催の形態は、おおよそこれまでのものを踏襲し、これまでと同様な成功を収めることを目指す。近年の新たな試みとして、Scope制を継続し、個々のScopeの見直しも継続する。研究・開発・産業の動向にしたがいTopical Session(TS)やSpecial Topics of Interest (STI)を積極的に活用する。今年からは、Proceedings of IDWに掲載された論文にDOIを付与し、インターネット上にオープンアクセスの文献として公開する。2020年5月1日からIDW'19の論文を公開する。科研費の継続的受給が見込めなくなった現状を省みて、IDW'20実行委員会からの意見も鑑み参加費の値上げにより財務体質の健全化を行う。値上げによるともない5,000千円程度の増収をみこみ、単年度の収支を改善する。しかし、2020年度は新型コロナウイルスの影響による支出を想定して国際会議運営給付金を予算化する。

#### ・記念事業その他

IDW'20で特色ある活動があれば検討する。

2019年度より導入したIDWの独自の表彰制度“Kobayashi-Uchiike-Mikoshiba Prize”を継続する。

### 中長期計画

#### ・国際会議開催事業

IDW'19の予定外の赤字を顧み、中長期的に財務体質の強靭化を目指す。具体的には、安定して損益分岐点を超えられる参加者数（参加費収入）の明確化およびそれに向けた参加者の増加や新規参加者数の発掘にむけた新たな施策を検討する。さらに、感染症をはじめとした、不足の事態が発生した場合にでも事業の継続を確保するため、多様な技能をもつ委員の視点を生かし財務体質を分析し、固定費のスリム化、意思決定にかかるコスト削減、ビデオ会議の積極利用による効率化などを行う。

また、IDW'20以降の中長期的開催方針や施策について、IDWは新しい分野を取り込

むことで現状維持拡大を目指すという基本方針をもとに、2018年に国際会議委員会からIDW '19 コア委員会に提案した内容の実施状況や実施効果を見ながら、再度見直しの議論を進め、IDW '20以降の国際会議運営への反映を目指す。

以上